

沖縄県公安委員会定例会会議録（令和7年8月21日）

1 主な報告等

(1) 「ハラスメント防止研修」講話の開催について

委員から、このように幹部向けの研修会を行うことは非常によいことだ。特に、警察は階級に重みがあるので、幹部が自らを律する必要がある。ハラスメントを行う者は、自分流の仕事や人生の流儀を押しつける傾向にある。職場は人間関係で成り立っている。ハラスメントを防止するには、職場内の意思疎通、コミュニケーションが重要だ。コミュニケーションが不足すると、上司は指導と思って行ったことが、部下にはハラスメントと受け止められることがある。これからも継続してハラスメント防止対策を継続してほしい。ただ、世間では多種多様なハラスメントが言われているが、法律的に対策を講ずべき職場内のハラスメントは、パワハラ、セクハラ、妊娠・出産・育児休業・介護休業等に関するハラスメント及びカスハラの4種類なので、混乱しないよう気をつけてほしい旨の発言があった。

(2) 海外を拠点とした悪質なヤミ金融（出資法違反）事件等の海外逃亡被疑者の検挙について

委員から、沖縄は人口に対する貸金業店舗数が全国で一番高いと聞いたことがある。正規のところから借りることができずに、ヤミ金融から借りるケースも多いと思う。しかしヤミ金融は、借りた本人だけでなく、職場や親戚などへも悪質な取り立てを行うとも聞いている。今回の事件では、相談を端緒に地道な捜査を続け、次々と被疑者を逮捕していったことは大変素晴らしい。捜査員には、相当な根気が求められたことと思うが、今後とも、しっかり捜査をして、厳しく取締り、犯罪組織の全容を解明してほしい旨の発言があった。

(3) 令和7年上半期における法医・理化学鑑定状況について

委員から、警察の強みは、捜査部門、鑑定部門、警務部門、生活安全部門、地域部門、交通部門、警備部門などの総合力を備えているところだ。それを支える人たちが陰日向なく努力しているからこそ、その総合力が発揮できるものだと思う。鑑定部門は、事件解決には必要不可欠な割には陽が当たりにくいところと思われる。適正な評価、人材の育成、体制の強化などをしてほしい。DNAなどの証拠資料については規則に基づいて適正に採集し、鑑定結果を大いに活用して、これからも事故の解決を図ってほしい旨の発言があった。

(4) その他

警察本部から、法医・理化学鑑定は、捜査の中でもますます重要性を帯びてきている。法医、物理、化学いずれの部門も年々鑑定手法の研究が進み、それに伴い職員に求められる知識や技術の水準も自ずと高まっている。そのような中で、科捜研職員は、普段の鑑定をする傍ら、関連学会への参加、大学院へ通って博士号を取得するなど、自己のスキルを高めるために日々努力している。警察組織としても同職員

の向上心を最大限に支援し、レベルアップを図って行きたい旨の発言があった。

2 主な決裁等

(1) 警務部

- ・ 公安委員会宛て苦情の受理について
- ・ 公安委員会宛て再審査申請の受理について
- ・ 九公連第43回定例会の協議テーマ等の選定について
- ・ 公安委員会宛て苦情の調査結果について
- ・ 犯罪被害者等給付金支給裁定に伴う公安委員会の裁定について
- ・ 裁決書の裁決について

(2) 生活安全部

- ・ 学校における事案発生時の通報について

(3) 刑事部

- ・ 再発防止命令に伴う意見聴取について

(4) 交通部

- ・ 交通規制の実施について
- ・ 自動車運転免許の行政処分について
- ・ 指定自動車教習所の行政処分について

(5) 警備部

- ・ 警察職員等の援助要求について（2件）